

卒業時満足度調査(2022-2024)分析レポート

1. はじめに

本レポートは、2022年度から2024年度までの3年間にわたり実施された「卒業時満足度調査」の結果を分析し、本学の教育および学生支援における現状の強みと今後の課題を明らかにすることを目的とします。

この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響が学生生活に大きな変化をもたらした時期と重なります。特に、遠隔授業が中心であった2023年卒業生(2020年度入学生)と、対面での活動が本格的に再開された環境で学生生活を送った2024年卒業生(2021年度入学生)との比較は、本学の教育的価値の核心を理解する上で重要な示唆を与えてくれます。

学生経験をより深く理解するため、2024年度より設問を改善しました。2023年度までは、総合満足度を尋ねる質問が1件のみでしたが、2024年度より、学修面の総合満足度、学修での成長実感、学修以外の学生生活における総合満足度、それぞれを4件で尋ねる質問としました。

【調査概要】

- 対象者: 2022年、2023年、2024年の3月卒業生
- 回答率の推移:
 - 2022年度卒: 57.5% (153名/266名)
 - 2023年度卒: 41.5% (110名/265名)
 - 2024年度卒: 69.5% (162名/233名)
- ポイントについて:

質問項目を経年で比較するために指標(平均値)を設定しました。各質問項目における4件法を数値化(はい:2pt、まあそうである:1pt、あまりそうではない:-1pt、いいえ:-2pt)し、平均値を算出しています。

2. 用語の解説

本レポートで用いる主要な用語について、以下に解説します。

- DP(ディプロマ・ポリシー):
卒業認定・学位授与の方針のことです。本学が学生に卒業までに身につけてほしいと定めている能力(例:「社会的責任」「専門分野の学力」など)に関する方針を指します。
- CP(カリキュラム・ポリシー):
教育課程の編成・実施に関する方針のことです。DPで掲げた能力を学生が身につけられるよう、どのような教育プログラム(授業科目、研究会など)を体系的に提供するかを定めた方針を指します。

[嘉悦大学 | 3つのポリシー](#) [本調査の対象学年\(2019年度カリキュラム生\)のDP・CP](#)

3. 分析結果サマリー: コロナ禍からの力強いV字回復と本学の核となる強み

3年間のデータを分析した結果、最も顕著な点は、**2024年卒業生の満足度がほぼ全ての指標において過去2年間で大幅に上回り、力強い「V字回復」を遂げたことです**。この回復は、学生のエンゲージメントを示す調査回答率の急増とも連動しており、対面での学術的・社会的活動の再開が学生経験の質に極めて重要であることを示しています。

このV字回復の背景から、本学の核となる強みが2点、浮かび上がりました。

1. 卓越した専門教育、特に「研究会(ゼミ)」の圧倒的な評価

2024年度の調査において、「研究会」の満足度スコアは全調査項目の中で最高の

1.33を記録しました。これは単なる人気科目というだけでなく、少人数・対話形式による手厚い指導が、学生の専門知識の習得と実践的スキルの向上に絶大な効果をもたらしていることを証明しています。

2. 支援的で一体感のある「アットホーム」なキャンパス文化

学生生活の満足度は、2023年度のスコア0.75から2024年度には**1.08**へと劇的に向上しました。後輩へのメッセージを分析したワードクラウドにおいても、「嘉悦大学」という言葉を中心に「アットホームな」「手厚い」「楽しい」といったポジティブな言葉が並び、本学のイメージを示しています。『大学を卒業することを誇りに思う』と答えた学生は**82.1%**、『大学生活で安心感を得られた』と答えた学生は**88.3%**に達しており、強い帰属意識と心理的安全性が醸成されていることが分かります。

4. 詳細分析

4.1. 総合満足度の推移: キャンパスライフの復活が全体を牽引

学生生活の総合満足度は、コロナ禍で最も落ち込みが激しかった項目ですが、2024年度にはV字回復を遂げました。これは、学園祭などのイベント復活や日常的なキャンパスでの交流が、学生の大学生活全体の充実感につながることを示しています。

なお、2024年度調査より、総合満足度の設問は「学びの総合満足度」「学びを通じた成長実感」「学生生活の総合満足度」の3つに細分化されました。これにより、学生経験を多角的に把握し、よりのめを絞った改善策を講じることが可能となりました。2024年度の結果は、これら全ての新指標において高い満足度を示しており(肯定的回答率: 学び満足度91.3%、成長実感89.5%、学生生活満足度87.7%)今後の重要なベンチマークとなります。

4.2. 学びの満足度(CP・DP): 専門教育の高い評価と能力習熟度の向上

■ カリキュラム・ポリシー(CP)関連

2024年度のデータでは、学術経験において明確な序列が見られました。

- 高い評価を得た専門教育:
 - 研究会(ゼミ): **1.33**
 - 専門教育科目(基幹科目): **1.29**

- 専門教育科目(3つの系):1.26
- 安定しているが改善の余地がある基礎教育:
 - 初年次教育: 1.11
 - キャリア科目: 1.06
 - ライフ・ウェルネス科目群: 1.02

この結果は、学生が専門課程に進むにつれて満足度が飛躍的に高まる構造を示唆しています。研究会(ゼミ)で実践されている対話的な要素や手厚い指導等が、成功要因と考えられます。初年次教育などにも展開していくことで、学修経験全体の質をさらに向上させる可能性があります。

■ ディプロマ・ポリシー(DP)関連

DP(卒業時に身につけるべき能力)の習熟度についても、全7項目で2024年度のスコアが過去2年間で上回りました。特に、対面での協同学習の復活を直接的に反映し、「チーム力・デザイン能力」のスコアが2023年度の0.66から2024年度には1.15へと劇的に回復しました。これは、研究会をはじめとする実践的な専門教育が、知識の習得だけでなく、社会で求められる能力の育成にも効果的に機能していることの証左です。

5. まとめと今後の展望

本調査結果は、2024年度卒業生の満足度が、対面授業の本格再開に伴い前年度から大幅に向上したことを示しています。特に、「研究会(ゼミ)」を中心とする専門教育への高い評価と、「アットホーム」な校風に支えられた学生の大学への強い帰属意識が、本学の明確な強みとして確認されました。

本学ではこの結果に基づき、継続的な教育改善に取り組めます。例えば、評価の高い研究会(ゼミ)の教育要素を初年次教育などにも応用し、学生全体の学習経験の質向上を目指すことができます。

今後も卒業時満足度調査をはじめとする学生からのフィードバックを重視し、教育および学生支援のさらなる充実に努めてまいります。

6. 謝辞

本調査の実施にあたり、ご協力いただきました2022年度、2023年度、ならびに2024年度卒業生の皆様に、心より御礼申し上げます。

皆様から寄せられた貴重なご意見は、本学の教育および学生支援をより良いものにしていくための大変重要な礎となります。

卒業生の皆様の、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。